NEURON
NEWS LETTER
管路防災研究所 NEURON Pipeline Resilience Laboratory
2026.11
Vol. 54

NEURONにおける博士号取得の意義

日本ニューロン株式会社 管路防災研究所 代表 岩本 泰一



〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台2-2-5
日本ニューロン株式会社
けいはんなサウスラボ
『管路防災研究所』

お問い合わせ先
info@neuron.ne.jp

一人の技術者の成長を心から喜ぶ

2026年9月、当社の管路防災研究所主任研究員である西勇也が、神戸大学大学院において博士（工学）の学位を取得した。2023年10月の入学から3年間、企業に籍を置きながら研究活動に取り組み、所定の期間内に学位取得に至ったことは、まことに喜ばしく、代表として心から祝意を表したい。

企業における人財育成は、ともすれば業務遂行能力の向上や企業への貢献度で評価されがちである。しかし、社員一人ひとりには企業人である以前に、それぞれの人生があり、志があり、将来がある。

その志を尊重し、学びに必要な環境や機会を整え、経済的な面も含めて挑戦を後押しすることは、企業が果たすべき大切な役割である。 会社という組織が、個人の成長や自己実現の舞台となり得るならば、経営者としてこれほどありがたいことはない。ましてや、日々の企業活動と並行して学術研究に取り組むことは、決して容易ではなかったはずである。研究成果はもちろんのこと、3年間にわたり探究を重ね、学位取得という目標を成し遂げた本人の努力と研鑽に、心から敬意を表したい。

管路防災研究所にとっての意義

当社は2022年、国内初となる「管路防災研究所」を京都府精華町に開設した。地震、地盤変状、液状化などによる管路被害を未然に防ぐ「事前防災」を使命とし、実大実験、数値解析、現地調査、産学連携などを通じて、管路防災技術の研究開発に取り組んでいる。

開設から約4年、自治体、大学、研究機関、民間企業など、多くの方々にご来訪いただき、研究所が担う社会的役割と期待の大きさを実感している。折しも本年11月「防災庁」が発足し、国を挙げて「徹底した事前防災」を推進する新たな時代を迎えた。当研究所の使命もますます重要性を増している。

一方で、私たちは民間の製造企業が運営する研究所である。いかに優れた試験設備を備え、実験実績を積み重ねようとも、その研究成果が学術的な検証に耐え、社会から信頼されるものでなければ、真の研究機関とはいえない。

今回、西が取り組んだ研究テーマは「ベローズ型伸縮可撓継手の限界性能と耐震設計法」に関するものである。従来の機械工学的な設計手法に、土木工学の地震工学的な視点を取り入れ、実大実験やFEM解析を通じて、管路部品の限界性能を明らかにしようとする研究であった。
これは、まさしく当研究所が設立以来追求してきた研究課題そのものである。

そのテーマが大学院における博士論文として審査され、博士号取得に結びついたことの意義は大きい。単に当研究所に博士号取得者が誕生したということではない。私たちが取り組んできた研究の方向性と、その成果の一端が、学術的な評価を受けたことにこそ本質的な価値がある。

もちろん、博士号の取得をもって研究所全体の信頼性が保証されるわけではない。しかし、研究成果を学術的な検証に委ねる姿勢と、それを担う研究人財の存在は、当研究所の信用と信頼を積み上げるうえで、極めて大きな一歩であると確信している。

学術界とのご縁に感謝、次代へ

思い返せば、製造業として歩んできた当社が、大学や学会との交流を深め、研究成果を広く社会に発信する今日の姿に至ったのも、多くの先生方とのご縁とお導きがあってこそである。企業は利益を生み、事業を継続する責務を負う。社会インフラの防災技術を担う私たちには、それに加えて科学的根拠に基づく技術を社会へ提供し、得られた知見を次代へ継承していく責任がある。

そして、その責任を果たす原動力は、設備でも資金でもなく、最終的には「人」にほかならない。
今回の博士号取得を一つの節目として、当研究所を、企業の枠にとどまらず、産官学の「交流と共創」を通じて新たな知見を生み出し、人が育ち、社会に貢献する研究拠点へとさらに進化させてまいりたい。

一人の社員の成長が、企業の成長につながり、やがて社会の進歩に結びつく。
そのような企業、研究所であり続けたいと心底願っている。